

シンポジウムのご案内

歴史問題の和解と市民運動

—「非当事者」の役割を考える

●日時 3月4日(月) 13時30分～17時(予定)

●場所 東京大学駒場Iキャンパス18号館ホール

●基調講演

内海愛子氏(恵泉女学園大学名誉教授)

●パネルディスカッション

花房俊雄氏(関釜裁判を支援する会元事務局長)

川見一仁氏(中国人強制連行を考える会)

浅野慎一氏(神戸大学教授・中国残留日本人孤児を支援する兵庫の会代表)

丹波博紀氏(和光大学講師・最首塾世話人)

司会:松田ヒロ子(神戸学院大学准教授)

●主催

科研費新学術領域研究「『市民』による歴史問題の和解をめぐる活動とその可能性についての研究」

ご案内

歴史問題が社会的に注目を集めるようになって、長い時間が経過しています。この間、市民運動はその解決を目指して大きな力を発揮してきました。しかし、過去の戦争、植民地支配に起因する問題のみを見ても、なお課題は多く、現在も人権救済を求めて運動を繰り広げている人びとがいます。また、なんらかの「謝罪」や「補償」があったとしても、歴史の反省や記憶の継承を進めていくためには、市民の取り組みが必要となります。

近年、歴史問題の「和解」についての研究が始められています。ただし、市民運動がどのように展開され、何を課題としているのかについては、まだ十分な議論の蓄積はありません。そこで、これまでの市民運動の経験から学び、同時にこれからの市民運動のあり方について考える第一歩として、関係者をお招きしてシンポジウムを開催します。

今回のテーマは「『非当事者』の役割を考える」です。尊厳回復・賠償を求める当事者との関係の築き方、「支援」で行われていることやその難しさ、被害者・加害者・支援者とは誰なのかなど、経験に学ぶべきことや今後考えていくべきことは多くあります。様々な市民運動に携わってきた方々、研究者とともに議論することを予定しています。多くの方々のご参加を呼びかけます。

連絡先

東京大学教養学部・総合文化研究科 外村大研究室

14no510bj@gmail.com

会場

